

科目ナンバー： MmC3162

授業コード： 6630301800

講義科目名称： 助産学実習IV（地域母子ケア）

英文科目名称： Clinical Practice in MidwiferyIV (Community Mother-Child Care)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	助産師必修
担当教員			
◎常盤洋子、高林知佳子、野口裕子、増澤祐子、八巻ちひろ、五十畑麻奈美、塚田文枝			
添付ファイル			

授業種類	【開講】 後期	【授業時間】 90時間		
	【担当教員】			
	【氏名】	【所属】	【研究室】	【メールアドレス】
	◎常盤 洋子	新潟県立看護大学	320	yotokiwa@niigata-cn.ac.jp
	高林 知佳子	同上	304	takabaya@niigata-cn.ac.jp
	野口 裕子	同上	209	yuko@niigata-cn.ac.jp
	増澤 祐子	同上	311	masuzawa@niigata-cn.ac.jp
	八巻 ちひろ	同上	309	cyamaki@niigata-cn.ac.jp
	五十畑 麻奈美	同上	共同研究室 2	isohata@niigata-cn.ac.jp
	塚田 文枝	同上	共同研究室 2	ftsukada@niigata-cn.ac.jp
	【大学の科目区分】 専門分野			
	【DP1】 【DP2】 【DP3】 【DP4】 【DP5】			
	研究			
	CNS			
	助産	○	◎	○

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 産後4か月程度までの母子の生活をアセスメントし、妊娠期や産後の生活、子育てに適応する過程で必要とされる助産ケアを説明できる。 地域における母子保健事業への参加を通して、子育て世代包括支援の観点から母子保健活動における多職種連携・協働の必要性を説明できる。 地域診断をふまえて子育て世代包括支援の観点から地域で生活する母子とその家族のニーズおよび母子保健システムの課題を説明できる。 地域で生活する母子とその家族の健康上の問題を地域診断を踏まえて述べることできる。 地域診断の結果明らかにされた母子の健康課題を解決するための母子ケアの計画・実施・評価を通して地域母子保健活動における助産師の役割を述べることできる。
------	--

授業概要	地域における母子保健事業・母子ケア事業に参加し、子育て世代を包括的に支援するための切れ目のない地域母子ケアや多職種連携・協働の実践を学ぶ。また、母子の暮らしを見据えた母子ケアの一環として家庭訪問指導や地域診断に基づく子育て支援プログラムを立案し、効率的・効果的な実施および評価について考察する。
------	---

授業計画	<p>授業形態：実習 実習施設：上越市健康づくり推進課 所在地：上越市木田1-1-3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠の届け出 ・母子健康手帳の交付 ・すくすく赤ちゃんセミナー ・産後ケア事業：来所型ケア、訪問型ケア ・助産師による相談 <p>*原則として午前9時～午後4時までとするが、実習内容によって変更もありうる。</p> <p>実習期間：令和8年9月～10月（この期間のうち2週間）</p> <p>実習内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) オリエンテーション（上越市健康づくり推進課） <ol style="list-style-type: none"> (1) 上越市の地域概況 (2) 上越市の母子保健事業の概要と課題 2) 上越市で開催される母子保健事業の見学・家庭訪問への同行。 （事業の見学や家庭訪問への同行ができない場合は保健師・助産師から家庭訪問事例について情報を得る） 3) 地域母子保健演習で収集した情報・健康課題、アセスメントの視点を参考に地域診断を行う。
------	--

	<p>地区踏査、コミュニティ・アズ・パートナーモデルの活用、地域の保健師、または助産師の母子保健活動からの情報の活用、地域住民の声を活用、母子ケアを必要とする人々を把握、関係機関の聞き取り</p> <p>4) 地域の母子の顕在的、潜在的する健康課題の中から健康課題を一つ取り上げ、課題解決のための事業計画を一つ作成する。</p> <p>5) カンファレンス (1) 地域診断を通しての学び、気づき、体験の発表・ディスカッション (2) 母子ケアの看護過程の展開について発表・ディスカッション (3) 実習内容の疑問点、不明点の明確化</p> <p>実習報告会： 実習終了後に指導者と日程調整をして実習報告会を開催する。以下2つのテーマについて発表し、今後の助産活動への課題についてディスカッションを行い、助産観を深める場とする。 (1) 助産学実習Ⅳ（地域母子保健）の実習内容と実習を通して得られた学び (2) 地域母子保健活動における助産師の役割</p> <p>*実習内容、実習方法の詳細は実習要項を参照</p>
事前・事後学習	<p>事前学修：助産師コースの既習科目（地域母子保健特論、地域母子保健演習）を振り返り、自己の課題を明確にする。</p> <p>事後学修：母子の暮らしを見据えた助産の実践について自己の考えを言語化するとともに助産観を醸成する。</p>
評価方法、評価基準	到達目標1～5に対して、助産学実習Ⅳ評価票50%、実習記録、カンファレンスでの発表内容20%、実習後のレポート（子育て世代を包括的に支援するための切れ目のない母子支援活動の在り方と助産師の役割）30%から総合的に評価する。
テキスト	最新の論文や文献を使用するため、現時点では指定せず授業内で案内する。
参考図書・資料等	特に指定しない。
受講、課題、資料配布等のルール	「母子の暮らしを見据えた助産が実践できる」という助産師コースの理念に基づき実習計画を立案する。実習内容や方法の詳細については実習要項を参照する。
教員からのメッセージ	「母子の暮らしを見据えた助産が実践できる」という助産師コースの理念に基づく実習を展開することを期待する。
オフィスアワー	随時（メール調整）対応する。